

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-93692

(43)公開日 平成6年(1994)4月5日

(51)Int.Cl.⁵

E 0 4 D 13/15

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

X 7416-2E

T 7416-2E

審査請求 未請求 請求項の数1(全 5 頁)

(21)出願番号

特願平4-269309

(22)出願日

平成4年(1992)9月12日

(71)出願人 390037154

大和ハウス工業株式会社

大阪府大阪市西区阿波座1丁目5番16号

(72)発明者 目賀田 史夫

大阪府大阪市西区阿波座1丁目5番16号

大和ハウス工業株式会社内

(72)発明者 喜多嶋 多賀彦

大阪府大阪市西区阿波座1丁目5番16号

大和ハウス工業株式会社内

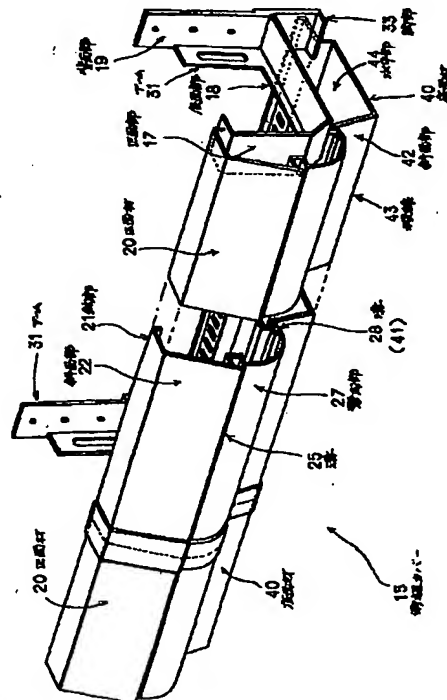
(74)代理人 弁理士 千葉 茂雄

(54)【発明の名称】 雨樋カバー

(57)【要約】

【目的】 軒先14を短く切り落としても建物全体の美的バランスが崩れない雨樋カバー15を得る。

【構成】 雨樋カバー15を正面材20と底面材40を接合して形成する。正面材20が内向きに窪んだ溝25によって斜面部22と彎曲部27とに上下に二つに区切り、底面材40は稜線43を境に斜面部42と水平部44とに折れ曲げて形成する。正面材20の斜面部22と彎曲部27および底面材40の斜面部42の各垂直方向の高さ寸法AとBとCは略同じにし、それらの寸法の差(A~B、B~C、C~A)はそれら何れもの高さ寸法A・B・Cの10%以下にする。水平部44の水平方向の幅寸法Dは雨樋カバー全体15の幅寸法Eの40~60%にする。雨樋カバー15は、軒先に取り付けたアーム31に鉤部21を引っ掛け、水平部30の裏側をアーム31に当ててビス止めし、水平部46をアーム31の脚部33に当ててビス止めして取り付けられる。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 雨樋11の正面12を覆う長尺の正面材20と雨樋11の底面13を覆う長尺の底面材40を上下に平行に並べ、正面材20と底面材40を接合して構成され、正面材20が内向きに窪んだ溝25によって斜面部22と彎曲部27とに上下に二つに区切られ、溝25の斜面部側の溝縁24が彎曲部側の溝縁26よりも外向きに突出し、斜面部22が下側に向けて外向きに真っ直ぐに傾斜して下縁23が溝25の上に突き出た溝縁24を形成し、斜面部22の上縁が内向きに折り込まれた鉤部21を形成しており、彎曲部27が下側に向けて内向きに円弧状に彎曲し、その彎曲部27の下縁は上側に折れ曲がって垂直部29に続き、更に水平方向に内向きに折れ曲がって水平部30へと続いており、彎曲部27に交わる垂直部29の稜線部分には、外向きに窪んだ溝28が正面材20の長さ方向に形成されており、底面材40が長さ方向に続く稜線43を境にして斜面部42と水平部44とに折れ曲げられており、斜面部42の上縁41が水平方向に外向きに折れ曲がって正面材20の溝28に嵌め込まれて正面材20と底面材40が接合され、斜面部42が正面材20から下側に向けて内向きに真っ直ぐに傾斜しており、水平部44は稜線43から水平方向に内向きに折れ曲がって続き、水平部44の端縁部分が上側に折れ曲がって垂直部45に続き、更に水平方向に内向きに折れ曲がった水平部46とに続いていて上向きに窪んだステップ47が水平部44の端縁部分に形成されており、水平部46にはスリット孔48が底面材40の長さ方向に一定間隔で連設されており、正面材20の斜面部22と彎曲部27および底面材40の斜面部42の各垂直方向の高さ寸法AとBとCが略同じで、それらの高さ寸法の差(A~B、B~C、C~A)がそれら何れもの高さ寸法A・B・Cの10%以下であり、水平部44の水平方向の幅寸法Dが雨樋カバー全体15の幅寸法Eの40~60%になっていることを特徴とする雨樋カバー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、建物の雨樋の外面を覆う雨樋カバーに関するものである。

【0002】

【従来の技術】住宅が密集した市街地では敷地の境界線に極く接近させて建物を建築せざるを得ない場合が多い。そのような場合、プレハブ家屋のように屋根パネルが工場生産されたものでは、その軒先14を短く切り落さざるを得なくなる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】然るに、建物全体の美観を考慮して設計されたプレハブ家屋の軒先14を短く切り落とすと、建物全体の美的バランスが崩れて体裁の悪いものになる。そこで本発明は、短く切り落とされた

2

軒先14の雨樋11に化粧を施し、建物全体の体裁を整えるための雨樋カバー15を提供しようとするものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】即ち本発明に係る雨樋カバー15は、(a) 雨樋11の正面12を覆う長尺の正面材20と雨樋11の底面13を覆う長尺の底面材40を上下に平行に並べ、正面材20と底面材40を接合して構成され、(b) 正面材20が内向きに窪んだ溝25によって斜面部22と彎曲部27とに上下に二つに区切られ、溝25の斜面部側の溝縁24が彎曲部側の溝縁26よりも外向きに突出し、斜面部22が下側に向けて外向きに真っ直ぐに傾斜して下縁23が溝25の上に突き出た溝縁24を形成し、斜面部22の上縁が内向きに折り込まれた鉤部21を形成しており、(c) 彎曲部27が下側に向けて内向きに円弧状に彎曲し、その彎曲部27の下縁は上側に折れ曲がって垂直部29に続き、更に水平方向に内向きに折れ曲がって水平部30へと続いており、(d) 彎曲部27に交わる垂直部29の稜線部分には、外向きに窪んだ溝28が正面材20の長さ方向に形成されており、(e) 底面材40が長さ方向に続く稜線43を境にして斜面部42と水平部44とに折れ曲げられており、(f) 斜面部42の上縁41が水平方向に外向きに折れ曲がって正面材20の溝28に嵌め込まれて正面材20と底面材40が接合され、斜面部42が正面材20から下側に向けて内向きに真っ直ぐに傾斜しており、(g) 水平部44は稜線43から水平方向に内向きに折れ曲がって続き、(h)

水平部44の端縁部分が上側に折れ曲がって垂直部45に続き、更に水平方向に内向きに折れ曲がった水平部46とに続いていて上向きに窪んだステップ47が水平部44の端縁部分に形成されており、(i) 水平部46にはスリット孔48が底面材40の長さ方向に一定間隔で連設されており、(j) 正面材20の斜面部22と彎曲部27および底面材40の斜面部42の各垂直方向の高さ寸法AとBとCが略同じで、それらの高さ寸法の差(A~B、B~C、C~A)がそれら何れもの高さ寸法A・B・Cの10%以下であり、水平部44の水平方向の幅寸法Dが雨樋カバー全体15の幅寸法Eの40~60%になっていることを特徴とするものである。

【0005】雨樋カバー15は、軒先に取り付けたアーム31に鉤部21を引掛け、水平部30の裏側をアーム31に当ててビス止めし、水平部46をアーム31の脚部33に当ててビス止めして取り付けられる。

【0006】即ち、アーム31は、雨樋11の正面12と底面13と背面16をコ字形に囲む正面部17と底面部18と背面部19とがコ字形に折れ曲がって続き、背面部19の下端は、底面部18の下側に長く突き出た脚部33になっている。

【0007】雨樋11は、アーム31の背面部19に取

り付けた受け具34に載せてアーム31のコ字形の開口部35に嵌め込むように取り付けられる。

【0008】雨樋カバー15は、アーム31の正面部17の上端32に正面材20の鉤部21を引っ掛け、アーム31の底面部18の裏側に正面材20の水平部30を当ててビス止めして正面材20をアーム31に取り付け、次いで、底面材40の斜面部42の上縁41を正面材20の溝28に嵌め込んで係止し、底面材40の水平部46をアーム31の脚部33の下面に当ててビス止めして取り付けられる。

【0009】その場合、正面材20の彎曲部27の下縁の水平部30の外面にコ字形断面の補助カバー36を当て、その補助カバー36と共に水平部30をアームの水面部18にビス止めし、その補助カバー36に底面材40の斜面部の上縁41をビス止めするとよい。

【0010】

【発明の効果】本発明に係る雨樋カバー15は、その外面が溝25と正面材と底面材の接合箇所(28)と稜線43とによって四つに区切られて、全体が雨樋11を覆って外壁面37から軒先14まで彎曲して続いており、正面材20の斜面部22と彎曲部27および底面材40の斜面部42の各垂直方向の高さ寸法AとBとCが略同じで、それらの高さ寸法の差(A~B、B~C、C~A)がそれら何れもの高さ寸法A・B・Cの10%以下であり、水平部44の水平方向の幅寸法Dが雨樋カバー全体15の幅寸法Eの40~60%になっているので、下側に突き出た底面材40が雨樋の観を呈し、正面材20が内向きに窪んだ溝25によって斜面部22と彎曲部27とに上下に二つに区切られ、その傾斜して外向きに突き出た斜面部側の溝縁24は軒先14が溝25の上まで突き出たかの観を呈し、軒先全体14が分厚い屋根パネルを施工したかの如き観を呈する。

【0011】このため、アレハブ家屋の軒先14を短く切り落として建てる場合に雨樋カバー15を取り付けると、軒先14を短く切り落としても建物全体の美的バランスが崩れて体裁の悪いものにならない。

【0012】従って、本発明にかかる雨樋カバー15は、軒先14を短く切り落して敷地の境界線に極く接近させて建物を建築せざるを得ない住宅密集地でのアレハブ家屋の建築に特に効果的である。

【0013】そして雨樋カバー15は正面材20と底面材40とに分かれており、正面材20はアーム31に鉤部21を軽く引っ掛けておいて取り付けることが出来、又、底面材40はそのように取り付けした正面材20の溝28に上縁41を軽く嵌め込んで仮止めして取り付けることが出来るので、雨樋カバー15の取付作業が楽に行える。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る雨樋カバーの一部切截斜視図である。

【図2】本発明に係る雨樋カバーの分解斜視図である。

【図3】本発明に係る雨樋カバーの軒先に施工された状態での断面側面図である。

【図4】本発明に係る雨樋カバーを施工した軒先の側面図である。

【図5】雨樋を施工した軒先の側面図である。

10 【符号の説明】

- 11 雨樋
- 12 正面
- 13 底面
- 14 軒先
- 15 雨樋カバー
- 16 背面
- 17 正面部
- 18 底面部
- 19 背面部
- 20 正面材
- 21 鉤部
- 22 斜面部
- 23 斜面部下縁
- 24 溝縁
- 25 溝
- 26 溝縁
- 27 彎曲部
- 28 溝
- 29 垂直部
- 30 水平部
- 31 アーム
- 32 上端
- 33 脚部
- 34 受け具
- 35 開口部
- 36 補助カバー
- 37 外壁面
- 40 底面材
- 41 上縁
- 42 斜面部
- 43 稜線
- 44 水平部
- 45 垂直部
- 46 水平部
- 47 ステップ
- 48 スリット孔

(5)

特開平6-93692

【図5】

